

## 第5回青森県生涯学習審議会会議録

日時	平成26年2月28日(金) 14:00～16:30
場所	青森県警察本部 6階 教育委員会室
出席者	<p>《 委員 》 敬称略 10名 (欠席5名)</p> <p style="text-align: center;">浮木 隆      工藤 秀美      斉藤 雅美      境 香織      佐藤 江里子</p> <p style="text-align: center;">澁谷 尚子      田頭 順子      三上 雅通      山上 恵子      横内 清信</p> <p style="text-align: center;">(太田 博之) (野呂 徳治) (中上 千壽子) (原 英輔) (小笠原 彩子)</p> <p>《青森県教育次長》 中村 充</p> <p>《 事務局 》 5名</p> <p style="text-align: center;">中野 聖子 (生涯学習課長)</p> <p style="text-align: center;">中嶋 豊 (学校地域連携推進監)</p> <p style="text-align: center;">渡部 靖之 (企画振興グループマネージャー) 他2名</p> <p>《 その他 》 2名</p> <p style="text-align: center;">伊藤 直樹 (学校教育課 学校教育企画監)</p> <p style="text-align: center;">大瀬 雅生 (総合学校教育センター 教育活動支援課長)</p>
内容	<p>1 開 会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>3 案 件 (1) 各委員の提案について (2) 報告書の骨子について (3) その他</p> <p>4 閉 会</p>
配付資料	<p>次第</p> <p>青森県生涯学習審議会委員名簿</p> <p>座席図</p> <p>資料1            各委員からの意見</p> <p>資料2            報告書の骨子案</p> <p>資料3            今後の日程</p> <p>参考資料1       青森県教育施策の方針</p> <p>参考資料2       青森県教育振興基本計画</p> <p>参考資料3       平成26年度社会教育行政の方針と重点及び関係資料</p> <hr/> <p>&lt;情報提供資料&gt;</p> <p>「響 No. 98」(青森県総合社会教育センター)</p> <p>地域のつながり創造人育成事業報告書～地域における若者の人材育成の実態と今後のあり方～</p> <p style="text-align: right;">(青森県総合社会教育センター)</p>

## (1) 各委員からの意見

※資料1の掲載順に、各委員より意見の要点を説明

質疑応答

◆ リーダーやコーディネーターを育てるのはすごく難しいということと、講座の内容については工夫が必要だと思った。有名な方を呼ぶだけの講演会は全く工夫がないと思う。

ニーズに応えるということを考え、これから行おうとする講座がどういうニーズに応えることができるのかを考えれば、やはり工夫をしなければならないという考えが出てくるはずである。では、誰がその工夫をするかといえば、コーディネーターなのではないか。しかし、コーディネーターを育てることは難しさがある。公民館の職員を育てる講座があると伺ったが、児童館でも職員向けの講座が行われており、参加したことがある。その時の講座はやはり講義を聴くだけの形式であったので、どれだけ参加者のためになっているのだろうかと思った。何のためにやっている講座なのか、講座を開く側、人財を育成する側が講座内容や研修の参加者のニーズをしっかりと捉え、工夫をしていくことが一番大事であると思った。

人財の育成は難しいことだと思うかもしれないが、「でるそーれ」では法政大学のフィールドスタディを受け入れており、今年は22人の参加があった。3泊4日の日程で実施したが、今年のコースでは、津軽地方だけではなく十和田を巡って八戸から帰すという行程を組んだ。駅では涙を見せる学生もいたと聞いたが、何が学生をそうさせたのかと考えたとき、3日目のワークショップの最後に、「みなさんが津軽をコマーシャルすると仮定して、30秒のラジオコマーシャルを作る」という課題を全員に出したところ、作品はどれも素晴らしい出来で、センスだけではなく捉えていることが素晴らしいと感じた。ワークショップの意見交換では、津軽には魅力あるさまざまな観光資源があるが、やはり人であるという結論になった。人の魅力が津軽にはあるのだということを学生に教えられ、観光に来た人を地元の人に合わせ、人の魅力を伝えていくということが必要なのだと思った。

パンフレットには、興味を引きそうな人を載せればいいのかという話は以前からなされているが、加えてその人に効果的に会わせる講座などの、より実践的なものにつながっていけばいいと思う。聞き取り報告書は皆さん読んだと思うが、実際にヒアリングに行った人が一番その人の良さを感じたのではないかと。ということは、やはりその人に直接会って話を聞くということが対象に近づくことになるのだと思うので、このような方法がいいのではないかと。思う。

「今日の講座のキーは何か」をしっかりと捉える工夫をした講座を実施すれば、身になる講座になるのではないかと。

## (2) 報告書の骨子案

※資料2骨子案について、事務局から説明。

巻頭言を載せる案について

◆ (意見なし)

## 第1章テーマ設定について

### ◆（意見なし）

第2章について、第3章、第4章の前提としてこれからの青森県における生涯学習のあり方、捉え方についての全体的な提言としている点について（委員の皆様から事前に頂いた意見の中から抽出している）

### ◆（意見なし）

## 第3章県民に向けた提案について

### ◆（意見なし）

○ 昨日遅くに届き、資料の中に反映できなかったご意見がある。先ほど委員の説明を伺い、第3章の(1)学びの種を拾うために、及び(2)何のために学ぶのか、の中に反映させたい。

◇ 県民向けリーフレットを作るという案については、前回までの審議会で話し合われてきたことである。従来は作ったことがない。しかし、審議の中で必要であるとの議論になっていたものである。作成するということでよいか。

○ 報告書は作成した上で、その中に記載する県民向けの部分を、概要版としてわかりやすく編集し直して作る。予算のこともあるが、工夫して見やすいものを作りたい。

◇ リーフレットのタイトル案について、県民が手に取って開いてみたいと思うような、なにかいいコピーはないか。案件（1）で皆様からの説明の中には、キャッチコピーに通ずる言葉がたくさんあったと思う。

リーフレットには事例のようなものは入れないのか。

○ できればいくつか入れたいと考えている。具体的な例を示したほうが、より分かりやすいのではないか。

## 第4章行政向けの提言について

◇ この提言には、全く新しいものだけではなく、現在行政で行われている施策も入っていてよいか。

○ もちろんよい。

## 全体について

○ 報告書の全体の構成としては、これでよろしいか。報告書もまた読みやすさを考えなければならぬため、第2章は委員の皆様のご意見を基に、これからの青森県に必要な生涯学習の捉え方として柱立てをし、その上で第3章において県民へ向けた方策を出し、2章と3章の部分をわかりやすくしてリーフレットにする。また第4章では県民の生涯学習を支える行政への提言とする形としているが、このような構成でよろしいか。

- ◆ 第4章(3)で、人財の育成をしたあとに、人財バンクに登録するという項目を入れてはどうか。県にはかつて人財バンクがあったと記憶しているが、市町村にも人財を知らせることにより各地域で人財を活用できるのではないかと思った。人財を育成し、講座を開いて、バンク登録する。バンクの閲覧先はどこかというのを知らせる必要があると思う。
- ◇ 人財バンクに関する記述は、第4章(1)イに出てくる。人財の育成とバンクの整備をつなげて考えるのがいいのではという提案である。
- リーフレットのデザインについて、なにか具体的なアイデアがあればご意見をお伺いしたい。A3を二つ折りにし、両面へ印刷する程度の分量を考えている。
- ◆ 予算のこともあると思うが、できればプロのデザイナーに作っていただきたい。いかにも役所の方がワープロソフトで作成したというようなものはよくない。
- ◆ どうしても行政が作るものは真面目だと感じてしまう。たとえばA4サイズのチラシにぎっしり情報が詰まっていることが多く、余白があるということがとても重要だと思う。情報量として少し足りないかなと思うことが、もっと知りたいという思いにつながると考えている。リーフレットでも、余白があるデザインはできないものかと考えていた。情報は詰め込みすぎると、これとこれだけは知ってほしいという重要な要素が散漫になってしまうので、これだけはという情報だけを載せてほしい。もちろんオシャレであることも必要である。
- 本体としての報告書をしっかり作るので、リーフレットはできるだけその中から入れなければならない情報を精選し、詰め込みにならないようにしたい。
- ◆ プロの方もいいと思うし、高校のデザイン学科の生徒に作ってもらうと若い感覚が入るので、若い人たちにも見やすいと思う。また、自分たちも参画していると思ってもらえれば、その人たちもすでに一步を踏み出していることになるのではないか。
- ◆ 現実として、実現性はどうか。
- 予算をやりくりして、リーフレットを作成するためのお金を捻出しなければならない状況である。県の印刷物は集中調達という発注形態を取っており、各課ごとではなく一括して入札等をしている。このような形態ではどうしても価格での競争になってしまうのが現実である。デザイナー込で発注できる予算形態もあるが、今回の審議会に関する予算では想定していない。従って皆様のご意向がなかなか反映しづらいというのが実情である。
- ◆ デザイナーまで頼むことは難しいだろうが、先ほどのお話のとおり、情報を詰め込みすぎるのは、やはりよくないと思う。  
デザインの的にオシャレなものがあまり望めないのであれば、どうやってカバーするかというと、やはり実践者の方をクローズアップする形を取れば、報告書らしくないリーフレットができると思う。写真を載せることで目を引くことができ、興味を持ってもらえるのではないか。

- ◇ 作成部数はどのぐらいか。
- 置いていただける場所にもよるが、たとえば 10,000 部とか、そういう量が必要となる。しかしながら、きちんと計算はしていないものの、予算的にそこまでは厳しいと思う。できるだけ多くは刷りたい。  
また、ホームページにもアップはするが、なかなかダウンロードはしていただけないのではないか。
- ◇ どうしても予算的にできない場合もあると思う。まずは皆さんの意見を伺うという意味で、このような形、このようなスタイルがよいという希望を明らかにしておかなければならない。
- 先ほどの情報量の話で、よく例え話として出てくるのが東奥日報の本紙と、子ども向けに発行しているジュニジュニの比較である。ジュニジュニのほうが子ども向けであるため、わかりやすく書いていることと、やはり写真や文字の量が全く違うということが分かりやすさにつながっているのだと思う。このような例え話と、皆様からのご提案は参考になるのではないか。
- ナビのような学習情報の提供方法についてのご提案があったが、これまでの我々の情報提供の仕方は「分野ごと」としており、「テーマごと」という発想はなかった。テーマごととするときの具体的なイメージをお持ちであればお教え願いたい。  
ナビということは、たとえば自分が勉強したいテーマについて、役所内の縦割りの垣根を越えて、「こういう学習テーマを紹介」ということでよろしいか。
- ◆ 講座の内容が重複していると思うのは、企画課と男女共同参画課と教育委員会だと感じている。対象が重複しているからだと思うが、地域づくりや商品開発は、対象となる課に特化しているものと思っていた。PTA活動をしていても、教育委員会から来た情報かと思えばそうではなく、男女共同参画や厚生労働省から同じような内容の講座案内が来たりする。結局、自己実現するのにどんな講座を準備するのとなれば、対象者は一緒であっても、パソコン講座を作るという発想、就職を支援するという発想、社会参加を支援するという発想とで似かよった講座があったりする。文部科学省の事業で、女性再チャレンジ講座というものをやったことがあるが、最初に内容を見たときは厚生労働省の事業かと思ったことがある。求めているものが何なのか、社会参加でよしとするのか、もう一つ進んで仕事をするのをよしとするのかは、やってみないとわからない部分があって、重複する部分はいらないと思う。  
ナビは、他の課の事業でリンクするようなものがあれば紹介するというようなイメージで、もし生涯学習課を窓口として訪れたが、より厚生労働省が実施するような内容の講座に行きたい人がいた場合、そちらに誘導することができるような、あるいは地域づくりやものづくりに行きたいと思う人は、そちらに行けるようになっていけばいいと思う。窓口が一番広いのは生涯学習課なのではないか。
- ◇ 情報に縛られすぎると情報量が少なくなってしまうので、作り手としては関連がありそうなものはすべてつないでおき、情報を受け取るほうが選択できるような仕組みであればいいのではないか。

◆ 何らかの講座を探そうとしたときに、内容が全く同じではなくても、似たような講座がどこかで同じ時期に行われているかもしれないから探してみる、そういう拾いやすさがほしい。探そうと思っている人はいくらでも探すことができるので、そのような人向けにナビがあればいい。

○ 皆様が何かを学びたい、何かの講座やイベントに参加したいと思った時は、どのような方法で情報を探しているのか。

◇ インターネット検索が多いのではないか。

◆ 子どもが持って帰ってくるチラシもある。広報誌もある。

◆ ポスターを見る人もいる。

◆ インターネットは情報が多すぎて、逆に探しづらい面がある。探しているうちに疲れてしまう。

◆ 情報を求めている人の目には、情報は触れやすいし、そのような人はどんどん情報を集めることができる。ポスターを見ただけで行こうと思う人もいると思う。PTAのチラシは特に目に触れやすいので、興味のある人には一番行き渡りやすいものだと思う。そういう意味では、教育委員会はすごい強みを持っていると言える。

「でるそーれ」では、地域連携旅行業というのをやる予定としている。なぜそのようなことをするのかというと、人と人を出会わせるために連れて行ってあげなければならないと思ったからである。会うということは、会いに行った人も、会いに来られた人も学びになる。先ほど法政大学の話をしたが、この企画はもう6年目になり、何度も受け入れてくださっている方は受け入れ方も上達して、来ないとさみしいとさえ言ってくれる。最初は仕事の邪魔になるとか、面倒だとか言っていた人が、やがて自分の仕事の励みになると言ってくれるので、人と人をつなぐことを旅行というコンテンツとしてできるのではないかと考えたものである。それが地域を元気にすることにもなるし、その人たちが元気になるということでもあるし、その人たちが育っていくことにつながると思う。旅行をされる人は、ただ名所旧跡が好きだけではなく、何かを学びたいという気持ちを持っているのだと思うので、そのニーズに応える仕事をしようと思っている。そこで得た学びの経験によって、次の学びを求めることにつながるのだと思う。これはただのきっかけで、最初はちょっとした旅行の気分であったものが、人と出会ったことでとても親しくなり、その後も交流が続いて親戚のように付き合っている方もいる。それは双方にとってとても幸せなことなので、そのようなことをプロデュースしたいと思っている。

PTAの研修旅行については、せっかくある程度学ぶ意欲も吸収する能力もある方々なのに、ただ旅行に行って終了というのはもったいない。

弘前の少年スポーツクラブを受け入れたときは、農業体験を通じた学習プログラムを行ったこともある。

それぞれ工夫の仕方の例として紹介した。

○ 男性の皆様は伺いたい。情報はどうやって得ているのか。本県では男性の社会参加活動の割合が低い、参加するためにはどんな方法があるのか。情報源は何か。

- ◆ 世の男性を見ていると、勤め人ほど出歩かないと感じる。仕事で人づきあいがあり、家に帰ってまで人と出会いたくないのだろうと思う。
- ◇ チラシを見て、年に何度か講座に参加することがある。家に届くものもあれば、公共施設に置いてあるものを見ることもある。パッと目に入ったもので、おもしろそうだと感じ、時間が合えば行ってみることがある。
- ◆ 退職後に急に老け込むのも男性に多い。
- ◆ 市役所と連携して団塊の世代を対象としたシニア向け事業をやったことがあるが、参加者は女性のほうが多く、いろいろ手を打っても男性の参加は少なかった。
- ◆ さまざまな会議に出たり、東京に行って話を聞いたりしても、やはり男性は出不精であるという話になる。男性はみんな孤独なのだろうと思う。女性は複数の人が連れ立って歩いているのを目にすることも多いが、男性はそのようなことがない。しかし、本当に好きなものには一人でも来るのが男性である。そうではない場合、あまり興味がないのに来るというのは、奥さんが連れてくる場合が多い。
- ◆ 男性は最初の一歩が重い。情報集めについては、何かやりたいと思った人はインターネットでも探すし、チラシを見ても、いつもはそう思わなくてもやりたいと思っているときはアンテナが張っているのを目に入ってくる。そのあたりが、一歩を踏み出せない人と、踏み出した人の違いではないか。男性をターゲットにする場合は、退職する前からやりたいものは何かという意識を持っておかなければならないということはこれまでも言われていることであるが、改めて強調していかないと、男性は一歩を踏み出していけないのではないか。

### (3) その他

※資料3に基づき、今後の予定について説明

※参考資料について説明